商学部開設60周年・商科開設100周年
記念号の発刊に寄せて

関西学院大学商学部は、1912年関西学院高等学部商科が開設されてから今年で、100周年を迎える。また昨年2011年は、第二次世界大戦後、新制大学として1951年に商学部が経済学部から分離独立し現在の商学部として誕生してから丁度60周年にあたる。この商科開設100周年と商学部開設60周年を記念し、ここに『商学論究』の記念号を発刊することとなった。執筆者の御協力に心より感謝するとともに、煩雑な編集作業を積極的に進めていただいた商学論究編集委員会の先生方に、衷心よりお礼を申し上げる。

関西学院大学商学部は、長い伝統に支えられ、今日まで発展してきた。1868年の明治維新を契機に資本主義が発展し、それに伴って専門的な経営者教育を行うために1887年の高等商業学校（現一橋大学）を皮切りに神戸、大阪、山口、長崎、小樽を始め各地に官公立の高等商業学校が設立された。また1904年の早稲田、明治、日本を始め、専修、関西、立教、中央など多くの私立に商科が開設され、本学では上記のように1912年に高等学部商科が開設されている。その後、1921年に商科の学生数の急増により、商科と文科からなる高等学部は、高等商業学部（高商）と文学部としてそれぞれ独立することとなった。旧制の関西学院大学への昇格の動きについてみると、1918年の大学令により、それまで帝国大学のみであった大学の制度が改められ、官立の総合大学の他に公立・私立の大学および単科大学の設置が認められることとなった。商科大学としては、1920年に東京商科大学、1929年に神戸商業大学が出現する。そして本学でも大学への昇格運動が高等学部の学生を中心に展開され、1932年、私立としては23番目となる旧制の関西学院大学の設立が認可され、1934年に法文学部と商経学部が開設された。

このような高等商業学校や商科大学の設立、旧制大学における商学部の開設と相まって、日本では経営学、会計学、商学の研究が生成、発展してきた。その中で商学部の学術機関誌『商学論究』は、研究者の研究を支え、学界への発信に多大の貢献をなしてきた。この『商学論究』は、高等学部商科で1915年に発刊された学生のための機関誌『商光』を起源としている。商光第１号には、後に院長となるベーツ学部長が1912年に提唱した、“Our College Motto, ‘Mastery for Service’” が掲載されており、したがってスクールモットーも今年、100周年を迎えることになる。商光は、商科が1921年に関学高商となった翌年、教員を対象とする純粋な学術雑誌に生まれ変わった。その後、機関誌の名称は、商光から『商学評論』に変わり、本格的な学術専門誌へと一層飛躍していった。

1934年に商経学部が開設された後も、伝統ある関学高商がそのまま存続した関係で、高商の教員と商経学部の教員とで〈関西学院商学研究会〉が組織され、それまでの商学評論に代えて新たに『商学論究』が、発行されることになった。しかし1930年代後半から1940年代前半に及ぶ第二次世界大戦のなかで商学論究は、1943年11月に第31号をもって発刊が中止となった。そして戦後、1951年に新制大学として商学部が独立した際に、〈関西学院大学商学研究会〉が改めて組織され、現在の『商学論究』が、復刊され今日に至っている。また2008年に復刊後の『商学論究』第１号より第55巻第４号（1951年12月～2008年３月）まで、過去すべての論文を PDF ファイル化した DVD-ROM が制作されている。５年ごとに作成されるので、次回の制作は2013年の予定である。半世紀以上にわたり発行され続けてきた『商学論究』の論文を容易く検索できるようになっている。先人たちの貴重な研究成果を幅広くご活用いただければ幸いである。

商科開設から100年の歴史の中で、幾多の困難に直面しながらも商学部教員の研究を支えてきた学術専門誌『商学論究』のさらなる充実、発展と商学部教員のご健筆を心より祈念する次第である。

なお商学部および『商学論究』の歴史を振り返るにあたり、『関西学院の100年、1889-1989』（1989年）、『関西学院百年史　通史編Ⅰ』（1997年）、『関西学院百年史　通史編Ⅱ』（1998年）、丸茂　新「関西学院創立100周年記念号の発刊に寄せて」（『商学論究』第37巻第1・2・3・4号合併号、1989年）、則定隆男「商学部開設50周年・商科開設90周年記念号の発刊に寄せて」（『商学論究』第50巻第1・2号合併号、2002年）、瀬見　博「商経学部開設75周年記念学術講演集の刊行に寄せて」（2010年）を参照、引用させていただいた。ここに記して謝したい。

2012年9月28日（創立記念日）

商学部長　海道ノブチカ